

桂川・相模川流域協議会 相模川湘南地域協議会 峯谷一好



カワラノギク復活プロジェクト

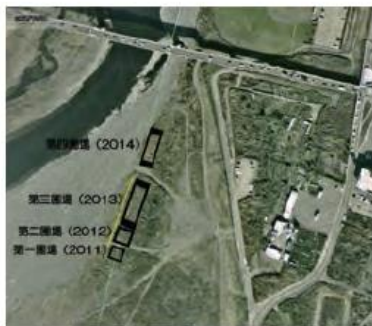
Q：なぜ？

A：カワラノギクはキク科の2年草で、鬼怒川、多摩川、相模川でしか見られない絶滅危惧種です。自然な状態の川に特化した植物であり、玉石河原でしか生息できません。

川がどこまで本来の自然かを示す指標植物であり、少しでも河原を自然な状態に残しておきたいと願う、私たちにとっての格好の取り組み対象です。

Q：どこに圃場がありますか。

A：神川橋下の相模川左岸（寒川側）の河原、寒川町と平塚市の境界付近にあります。2011年に国土交通省の河川整備計画で堆積した土砂が取り除かれ、昔の河原が復元しました。そこに、上流部から種をいただき、播種したのが始まりです。その後、年々面積が拡張しています。



Q：どんなところに生えていますか

A：自然な状態では、玉石がごろごろと浮き上がっている所に多く咲いています。種がたくさん出来、良く発芽しますが、多くの植物が好む肥沃な土地では、他の植物に負け、消えていきます。河原という一番過酷な生育環境に適応して、死地に活を求めることを選んだ、河原固有

植物という名の勇者たちのひとりです。

前年に発芽したものが翌年10月頃に咲きます。葉は、他の野菊たちと比較すると細長く、渇水時に余計な蒸散を抑え、増水の際に水の抵抗を減らす特徴を備えています。2014年の記録的な大水となった台風18号の後に訪れると、大きなヨモギの上部にはたくさんの流れてきた枯れ草が引っかかり、小さな雑草は倒れていましたが、カワラノギクは太い茎と分枝した花によって流れに負けず、先端まで冠水しにも関わらず立ち立っていました。

Q：なぜ減っているのですか

A：現在の河川はダムや取水堰により、水量管理され、上流部の1/3程度の水しか流れてきません。そのため、出水が減り、河原が草や木々で埋まってしまいました。

これに加え、グランド化などの人工的な利用が進み、生息地である玉石河原が減少したことが大きな要因です。今は市民や行政が保護して、やっと生きています。

Q：どのような苦勞がありますか

A：夏の暑い河原での水蒔き、草取り、冬の種取りなどを行っています。なかでも、外来植物のシナダレスズメガヤの除草には手を焼いています。多くの人手が必要です。

Q：いつ実施されていますか

A：毎月、第三日曜日9:00～10:30に実施しています。雨天中止です。汚れても良い格好、軍手、帽子、水筒をご持参でご参加ください。（トイレはありません）



カワラノギクの種取り